

<大会開催報告>

初年次教育学会 第6回大会 開催報告

大会実行委員長 藤本元啓 金沢工業大学

2013年度の第6回大会は、北陸金沢の南部に位置する、理工系大学の金沢工業大学扇が丘キャンパスにて開催いたしました。金沢への移動、お帰りのことを勘案し、大会期間を初めて3日間とし、初日を正午開催、最終日を正午頃に終える日程を組んでみました。

また加賀百万石の大大名前田家の城下町として発展した歴史・文学の「まち」金沢の散策、兼六園・武家屋敷・東茶屋街・近江町市場などや、近年新しい名所となった「金沢21世紀美術館」、JR金沢駅の「鼓門(つづみもん)」、「まちなかアート」など、ご堪能頂けましたでしょうか。初日の午前中は小雨模様、午後からは天候に恵まれ安堵いたしました。大会終了後の15・16日は台風18号の影響で、お帰りの支障や錦地の被害はございませんでしたでしょうか、お伺い申し上げます。

本大会では、主催大学企画のシンポジウム、学会企画のワークショップ13件をはじめ、ラウンドテーブル3件、自由研究発表52件におよぶ会員の報告エントリーがございました。そのうち報告者のやむを得ない事情によって、ワークショップ1件、自由研究発表2件のキャンセルがございましたが、おおむね例年通りの報告件数でした。また賛助会員によるブース展示が11件あり、初年次教育に関する書籍をはじめ、様々な補助教材の紹介・デモなどがあり、参加者との意見交換が活発におこなわれました。なお大会参加者数は413名、懇親会出席者数は186名で、盛会であったとあってよかろうと思います。

本大会のテーマは「初年次から始めるキャリア教育」でした。2011年の大学設置基準の改正により、「キャリアガイダンスの義務化」が始まりました。これは教育政策上の重要課題であり、高等教育のみならず、初等・中等教育からのつながりが必要であることは申すまでもありません。これまでGPの支援事業、資金提供もありましたし、また大学コンソーシアムをはじめ、様々な学会やシンポジウム等において、テーマとして取り上げられてまいりました。

そのような中、「キャリアガイダンスの義務化」を実施するにあたり、各大学ではカリキュラムをどのように構成されているのでしょうか。キャリアの意味を狭義でとらえるか、それとも広義でとらえるかによって異なりますが、キャリア教育科目、職業教育科目、就職支援教育科目などの科目群の構築、あるいは自己理解・自己管理能力への注力、124単位全体での構築、さらには正課教育と課外教育との連携と関連性を強める等、大学の歴史・事情によって、多様な理解と運営がなされています。

またキャリア教育は、大学内部だけで解決するものではなく、産業界とのつながりを考慮しなければならなくなって参りました。とくに大学と産業界との間に存在する、教育に関する意識のズレにも留意しなければなりません。要するに大学は、産業界からのニーズを強く認識せざるを得なくなっているということです。

このように、キャリア教育の運営、問題点等は多岐にわたっており、本シンポジウムですべてが解決できるわけではありませんが、何か一つでも勤務先で活用・援用できるものをお持ち帰り頂ければと考え企画した次第です。そのためか、自由研究発表でもキャリア関係の報告が9件あり、関心の高さが示されたものと存じます。ただ、シンポジウムの進行がうまくいかず、

パネルディスカッションは消化不良であったことをお詫びするとともに反省しております。

また今回初めて職員同士の意見交換の場をラウンドテーブルにおいて、「初年次教育における職員の役割について」と題して企画しました。職員主体と教職協働による初年次教育への取り組みの具体例と成果、またその計画・実施過程において生じた問題をどのように解決したのかなどについて2大学が報告し、職員各位が自由に討論できたことは、喜ばしいことでありました。参加者のほとんどが次回大会以降もこの種のセッションの企画を望んでいらっしゃいますので、続行に期待いたします。

大会運営の面では反省点が少なくありません。空調の調節がうまくいかず、涼しさを超えた室温になりがちで、申し訳ございません。受付も若干混乱し、事前申し込みをされた会員のお名前が見当たらないことや領収書の間違いもあり、ご迷惑をおかけしました。懇親会では「金沢らしい料理がない」とのお小言も頂戴しましたが、季節とケイタリングとの関係で生ものは控えさせていただきました。その代わりとしてはなんです、近年著名になってきた「金沢カレー」を盛りこみました。他にも多々行き届かないことがございましたが、ご寛願います。

お褒めに預かったこともございました。夏季休暇中にも関わらず、事前準備と大会当日の運営に協力してくれた学生スタッフの24名の仕事ぶりです。考えながら動いているな、と手前味噌ではありますが、大いに見直した次第です。中でも好評だったのはキャンパスツアーでした。当初、1名の学生で10名程度の参加者をご案内する予定でしたが、当日は5名程度に改め、学生の説明が十二分にお聴きとれるようにいたしました。

ツアーはAコース「学生の学習支援施設とプロジェクトデザイン教育」①夢考房26(ものづくり)②23号館(数理工教育研究センター・基礎英語教育センター・学生ステーション・スタジオ)③7号館(自習室、プロジェクトデザイン教育関係施設と資料)、Bコース「学生のプロジェクト活動と図書館」①夢考房41(プロジェクト活動)②6号館(LC:図書館・マルチメディア考房)の2コースで、Aコースに27グループ89名、Bコースに13グループ44名の参加者があり、ツアー終了後に参加者から拍手がわき起るなど、大変な盛況でした。

最後に本大会の企画・準備・運営に携わっていただいた実行委員各位に、あつく御礼を申し上げます。3月30日の第1回実行委員会から隔月で5回、大会前日の設営、大会3日間の運営・座長・司会など、手弁当でご協力を頂きました。以下敬称を略しますが、学外の渡辺達雄(金沢大学)、垣花 渉(石川県立看護大学)、岡野絹枝(金城大学短期大学部)、本田康二郎(金沢医科大学)、辰島裕美(北陸学院大学短期大学部)、長久保実(金沢星稜大学)、および本学の木村竜也、金光秀和、伊藤大輔、石川倫子、陳 淑茹、清水 節、東 俊之、鈴木貴士、川尻達也の委員各位のご尽力なしでは、大会の成功は到底なしえなかったものと存じます。

また多忙な学務の合間を工面し、学会事務局を兼務しながら、大会事務局員として膨大な準備作業を手際よく進めていただいた西村秀雄、西 誠、栃内文彦、長山恵子、八尾智子の各位には、格別の感謝とねぎらいを送りたく存じます。ご苦労様でした。

本大会は、会員各位のご参加とご協力とによって、成功裡に終えることができました。誠にありがとうございました。

次回は、2014年9月4・5日に奈良の帝塚山大学で開催の予定です。会員各位の発表エントリーに大いに期待しつつ、またお会いいたしましょう。

2013年9月27日